

令和 7 年度

第 17 回 和光市地域公共交通会議

(1)開催概要

- 日 時 : 令和 8 年 2 月 9 日(月) 14:00～
- 場 所 : 和光市役所 502 会議室
- 出席者 : [和光市地域公共交通会議委員] 出席21名
[事務局] 4 名
[傍聴] 8名

(2)会議の概要

1. 開会

2. 挨拶(柴崎市長)

こんにちは、和光市長の柴崎です。本日は第 17 回和光市地域公共交通会議にご出席をいただきましてどうもありがとうございます。

皆様におかれましては、和光市公共交通政策には大変なご協力をいただきまして感謝申し上げます。

本日の議題は、和光市地域公共交通計画の評価検証及び見直しに係る協議です。

皆様のご意見を伺いまして、和光市の地域公共交通がより良くなりますように検討を進めていきたいと考えております。また、自動運転サービス事業につきましては、大型 EV 自動運転バスの導入が、12 月の市議会で否決されたことに伴いまして、実証走行を中止することとなっております。

今後も先端の自動運転技術について研究したりですとか、あと市民の皆様にも理解していただけるような機会を作ったりですとか、努力して参りたいと考えておりますので、引き続きご協力賜りますようお願いいたします。

本日はよろしく申し上げます。

3. 議 事

① 和光市地域公共交通計画の評価検証について

・資料1及び資料「報告 1」を基に事務局より説明

会長

公共交通計画に関して、意見や質問はあるか。

委員

事業評価の判定について、どのような比率で設定しているか。

事務局

比率では分けていない。相対評価ではなく絶対評価をしている。

会長

その他、意見や質問はあるか。

委員

バス停の利用頻度を全体で検証し、未利用停留所の有無を含めた見直しを行ったことがあるか。また、車両のノンステップ化について、歩道との高低差解消が統一的に図られているのかを確認したい。

他に、乗継券の認知度が低く、高齢者を含め十分に活用されていない実態があるのではないか。現状の周知状況を踏まえ、紙媒体に限らない効果的な周知・利用促進策について伺う。

事務局

各バス停の利用状況については、実施したアンケートにおいて利用停留所を伺っており、集計がまとまり次第報告する予定である。あわせて令和 8 年度には聞き取り調査を実施し、乗降実態や需要を詳細に把握した上で、今後の計画に反映させる考えであり、結果が明確になり次第改めて報告する。

ノンステップ化について、市内循環バスは原則ノンステップ車両を運行している。一方、坂下・新倉コースの車両はハイエース型だが、停車時に補助ステップが出る仕様とし、段差を緩和する工夫を講じている。乗継券の認知不足は課題であり、周知方法や制度の分かりやすさについて、他市事例も参考にしながら検討していく。

会長

補足として、各バス停の乗降人数は毎日把握できているわけではない。Suica や PASMO など IC カード利用分は一定のデータ取得が可能であり、次年度の公共交通計画改定に向けて収集・分析を進める必要がある。一方、現金利用、とりわけ高齢者の 100 円利用分は十分に把握できていないのが実情である。このため、次年度に乗り込み調査を実施し、利用目的や停留所ごとの実態を偏りなく把握し、本会議で報告・意見聴取を行うように準備している。

ノンステップ車両に関して、停留所での正着が確保されなければ段差解消が十分図れない場合がある。車両だけではなく、道路形状も踏まえ、運行事業者と連携し改善していく必要がある。運行事業者の方の意見も伺いたい。

委員

停留所ごとに道路形状が異なり、切れ込みやバスベイがある場合は正着しやすいが、段差があるとスロープが使用できない箇所もある。大型車が狭隘道路を走行する区間も多く、道路環境上、常に円滑な正着を確保することは難しいと考えられる。

会長

各停留所の状況、とりわけ和光輸送の小型車両による補助ステップ対応については、道路条件と併せて評価する必要があるため、次回見直しに向け現状把握を進める。

道路環境の整備に関し、和光市駅北口の交通空間の整備については北口駅前広場検討委員会との連携が明記された点については、バス・タクシー動線や待機、自動運転等の新モビリティ等への対応を踏まえ、今後も本会議との具体的な連携方策、意見を問うこととする。

② 地域公共交通計画見直しについて

・資料 2 及び資料「報告 2」を基に事務局より説明

会長

公共交通計画の見直しに関して、意見や質問はあるか。

委員

和光版 MaaS について一切の記載がないが、このアンケートは関係ないのか。

事務局

このアンケートは日常的な移動傾向や要望、課題を整理するものであり、和光版 MaaS は基にしていない。

会長

市内循環バスの意向については、利用者にとっての使い勝手や利用頻度を把握することが重要であると考え。現行アンケートでは通常の路線バスと市内循環バスが同一項目で扱われており、比較には支障がないものの、利用実態をより詳細に把握するには市内循環バスに特化した設問を追加する方が良い。各位からご意見は無いようなので、1-10 の後ろに、市内循環バスに特化した利用頻度や利用傾向について整理することとする。

委員

市民アンケートの実施について、対象は16歳以上の和光市民で調査人数は3,000人であるが、無作為に実施すると年齢構成が偏る可能性があるため、年齢別に集計できる形でアンケートを実施することが望ましいと思うがいかがか。

事務局

年齢については、和光市民の人口ピラミッドに基づき、各年代の分布に応じた比率でアンケートを配布する予定である。これにより市民の年齢構成に応じたアンケートとなり、年代ごとの傾向も把握可能である。

委員

無作為に抽出する3,000人については、あらかじめ年齢の基準を設定して配布しているのか、条件を付けて抽出しているのか、その点について確認したい。

事務局

各年代の比率を算出し、3,000人の中で年代ごとの人数を割り出す。その人数に応じて対象者を無作為に抽出する形で実施する。

会長

調査スケジュールについては、令和7年度末までに修正を行ったうえで実施することになる。市内循環バスに関する設問の追加や、設問の具体的な設計は会長と事務局に一任し、実施後の結果については参加者に共有する形でいかがだろうか。

全会一致

4. 報告事項

① 市内循環バス利用者アンケート速報について

・資料「報告1」を基に事務局より説明

会長

報告1について、意見や質問はあるか。

委員

白子・吹上コースの利用者として、旧北・中央・南コースにあった市役所直通便の方が利便性は高かった。現在は市役所まで約 40 分を要し、埼玉病院経由が基本となっているため、通院以外の利用者には不便が増し、駅利用も含め所要時間の増加が不満につながっている。

事務局

市役所へのアクセスについては、白子・吹上コースと坂下・新倉コースの一部便で直通運行を令和 8 年 1 月から実施している。ただし部分的な所要時間の長さは課題であり、駅や病院、公共施設など複数目的を効率的に結ぶ運行計画が必要である。車両制約も踏まえ、時間変更なども検討材料とし、今後も利用者意見を参考に改善を進めていく。

会長

白子・吹上コースについては、駅や各施設へのルートが一巡するため所要時間が長くなり、満足度調査でも他路線に比べ評価が低いことが明らかになった。運行時間やルートの適切さも時間帯によって不便さが出ており、改善が必要な路線の一つである。次年度の公共交通計画策定にあたり、アンケート結果や具体的データを踏まえ、ルート修正の方針についてご意見をいただきたい。また、市民研究会でも路線改善の具体案を検討し、提案として皆様に還元していく予定である。併せて、次年度の計画見直しに向けたスケジュールと市民アンケート実施の流れについても報告・説明を進める。

② 公共交通不便地域タクシー利用料金助成事業の実証および市内循環バスわこばの定額乗車券制度の実証について

・資料「報告 3.4」を基に事務局より説明

会長

定額乗車券の購入者に対し、アンケート調査や、利用頻度や以前の利用状況との比較などを評価項目に含め、購入者に直接アクセスしてデータを取得する形で検討いただくことは可能か。

事務局

アンケート内容によっては追加費用が発生する可能性があるため、事業者と相談のうえ、実施可能な範囲を整理して対応したい。

委員

公共交通不便地域タクシー利用料金助成事業について、実際の対象者の総数はどれくらいか。

事務局

具体的な人数の把握は困難であるが、対象となる公共交通不便地域の住民はおおよそ 18,000 人である。免許証の有無などを含めた総合的な人数は算出が難しいため、今回は供給可能な範囲内で対象者の上限を設定して整理している。

会長

本日の公共交通会議では、まず現行の地域公共交通計画の進捗状況について確認が行われ、数値目標の達成状況や事業の進行状況が報告された。その後、市内循環バスの利用者アンケート結果も共有され、一部路線で利用者数が伸び悩んでいることや、ノンステップバス導入後の利便性について評価が必要であるとの意見が出た。

次に、次期公共交通計画のスケジュールについても確認され、アンケート調査を精査のうえ、2 月末に実施することが了承された。また、市内循環バスの実態に関する追加質問も提起され、参加者の了承を得たことを踏まえ、今後は事務局と連携して調査準備・実施作業を進めていくことが確認された。全体として、現状把握と次期計画策定に向けた具体的な進行方針が整理された会議であった。

5. 閉会

事務局

最後に、報告事項はあるか。

委員

・西武バス乗降運賃体系及び運転手任期制就労支援について資料説明

公共交通を取り巻く環境は厳しく、持続的運行のため人材確保や処遇改善、物価高騰対応、安全対策、車両更新等の費用の一部を利用者にご負担いただく形で、初乗り運賃を令和 8 年 7 月 1 日より 180 円から 200 円に改定予定である。各区间運賃は調整中で、決定次第ホームページ等で案内する。

併せて、運転手不足への対応として航空自衛隊の自衛官を対象とした任期制就労支援を昨年 11 月に実施し、将来的な運転手確保に向けた取り組みを進めている。和光市でも地域連携を

図りながら持続可能な公共交通の維持に努めていく。

事務局

次回の協議会は、令和 8 年 6 月頃の開催を想定している。詳細な日程については、決まり次第ご連絡する。

以上